

平成25年度M I E 職員力 アワード 受賞取組概要

※応募を受け付けた順に掲載

部局名		募集部門	活動テーマ	グループ名	取組概要
1	教育委員会	協創推進部門	(4) 多様な主体と協働！アール・ブリュット展と街なかワークショップ	稲葉特別支援学校	特別支援学校における図工美術の指導には多面的な教育効果があるが、障がいの実態は多様で指導は困難であり、また優れた芸術作品があっても公開の場は少ない。障がい者の芸術作品研究と制作支援、展覧会を通じた社会啓発活動で先導的役割を果たしている女子美術大学との共同展覧会を核に、トークセッションやワークショップ、物産販売などの多彩な取組を津市の街なかで開催した。イベントには延べ千人以上の参加者があり、障がいのある人たちの芸術作品への理解促進と特別支援学校における美術教育の推進、中心市街地の活性化に寄与した。
2	農林水産部	自由テーマ部門	(7) 障がい者も水産業者もハッピーな関係へ～水福連携の探求～	水福連携の取り組みを推進するための探求ワーキング（水産経営課）	水産分野と福祉分野の連携事例は全国的にも稀有な状況であったが、若手水産技師を中心としたワーキンググループで「障がい者雇用、水福連携」というテーマに挑戦することとし、水福連携の可能性について様々な角度から考察した。ワーキンググループでは、農福連携等の実態把握や事例調査を行うとともに県内の福祉施設に対して水福連携の取り組みを提案してきた。その結果、水産関係団体と福祉施設のマッチングに成功し、養殖資材の作製委託や鮮魚販売などの水福連携を促進することができた。
3	健康福祉部	職員力向上部門	(11) みんなで行う人づくり～もしも、担当者不在時に相談を受けたら～	ヤブ・ハラ・ケイコ（松阪保健所）	近年、団塊世代の大量退職などにより業務に精通した職員が減少し、また、育児のため変則勤務をする職員が増えたため、残された課員は相談対応などで衛生指導課特有の専門性の高い多様な業務を遂行することに不安を抱いている。そこで、担当者不在であっても必要最低限の相談対応ができるように、各担当者が順に講師となり他の課員へ繰り返し研修を行ったところ、普段から疑問点を課員全員で討議するようになり、お互いの業務を助け合う風土が醸成され、チーム(組織)力が向上した。
4	総務部	自由テーマ部門	(13) リーガル・ハイ！[リーガル・サポートの取組]	@HOUMU同好会（法務・文書課）	コンプライアンスの日常化をめざし、法令遵守及び説明責任を実効性のあるものとするため、行政手続を中心に、①日常業務の前に基本事項を確認し、②リーガルサポートシートで法的課題を把握し、③法務・文書課に法律相談をする の3つのステップで構成するリーガルサポートの仕組みを構築した。 また、この仕組みの運用においては職員への浸透・定着が一番の課題と考え、各部局との意見交換、本庁・地域機関職員を対象とした巡回法務・コンプライアンス研修での説明（406名参加）、メールマガジン@HOUMU通信の隔週配信、法曹有資格者による法律相談、イントラネットの各種メニューを活用し、それぞれ連携させて取り組んだ。
5	県土整備部	効率化推進部門	(20) 忙しいからこそ！～担当者マニュアル作成プロジェクト～	四建管理（四日市建設事務所）	多忙を極める建設事務所管理課の日常を背景に、初任者ばかりで始まった昨年度は、正確性が求められる許可事務で単純ミスが発生や事務処理の遅れといった問題が生じていた。理由は、年度末の引継ぎ内容が懸案事項ばかりで、基本的事項や年間のスケジュールを正しく把握していなかったためである。そこで、事務処理の統一化・効率化、また、担当者自身の負担軽減のために、担当者全員が協力して、引継ぎにも活用できるマニュアルを作成した。その結果、事務処理の正確性・迅速性の向上と精神的な余裕を生む効果を得ることができた。
6	環境生活部	自由テーマ部門	(39) 伊勢から熊野へ聖地巡礼歩き旅復活プロジェクト	伊勢から熊野へ聖地巡礼歩き旅復活プロジェクト（斎宮歴史博物館）	世界遺産「熊野参詣道伊勢路」は、本来、伊勢神宮を起点に熊野三山へ至る巡礼道であるが、現在、伊勢から熊野まで歩いて旅する人はほとんどいない。人が歩けば、世界遺産の様々な「効果」が東紀州以外の地域に、点から線へ、線から面へ広がるのが期待できる。そこで、江戸時代以前の旅にならない、巡礼歩き旅を復活させる取組を実施した。まず江戸時代以前の旅の魅力を研究し、東京や大阪に住む方々にも参加してもらい、実際に伊勢から熊野までの歩き旅調査を実施した。その後、それらの成果に基づき、ガイドブックを作成した。

部局名		募集部門	活動テーマ	グループ名	取組概要
7	出納局	成果向上部門	(54) 売れました♪ インターネットオークションで不用物品売却!	出納局再生工場 (会計支援課)	リサイクルセンターは所属間の物品リユースを仲介する役割を担っているが、近年はどこからも引き取りの要望がなく、センターに長期間、居座る物品も少なくない事態となっており、保管スペースの不足などの支障も生じている。こうした問題を解決するため、長期在庫物品の県庁外への売り払いを検討・実施することとした。電子調達システムでは申込みがなく不調に終わったが、管財課の協力のもとインターネットオークションにチャレンジしたところ、予想外の反響で売り払うことができた。
8	環境生活部	成果向上部門	(104) イエローカード/レッドカードの導入等による廃棄物監視・指導の強化	紀南地域活性化局 環境室	産業廃棄物の不法投棄・不適正処理の立ち入り件数は増加しており、限られた職員数・予算の中で効果的な指導を行うため「行政指導」の方法を改善した。1点目は廃棄物監視・指導課の方針により、事業者指導を口頭指導から文書指導へシフトし指導内容を明確化した。さらに当室では独自に指導文書をカラー化(白・黄・赤)しイエローカードを発行する等、一目で重要度が判別できるよう改善を行った。この取り組みは導入してわずか半年であるが複数の不適正処理事案解決に結びつけた。これらの取組みによる本年度の廃棄物撤去・適正処理実績は5万9千トンを超えた。